「いつか、だれかが」で終わらせない。soeasy buddy、歯科医院の現場から生まれた新機能「todo」をリリース

忙しい診療の合間に4回訪れる「忘れる」を逃さない。アプリ版・ブラウザ版で新機能を提供開始、標準機能として追加費用なくご利用いただけます

「おしえあうって、すばらしい。」をスローガンに、組織内DXによる人材育成や、教育・おしえあいの文化醸成を、AI搭載のアプリやプロが制作するビジネスショート動画で後押しする株式会社soeasy（本社：東京都千代田区、以下 soeasy）は、情報共有アプリ「soeasy buddy」の新機能「todo」をリリースいたしましたことをお知らせいたします。本機能はアプリ版・ブラウザ版の両方でご利用いただけます。

soeasy buddy の「todo」とは、現場で口にした“やること”を記録し、終わったかどうかを職場全体で共有できる機能です。担当者をあらかじめ決める必要はなく、終わったらチェックを1回押すだけで、誰がいつ実施したかが記録として残ります。

歯科医院での訪問ヒアリングで見えたのは、医院のやることの多くが「やっておこうね」という口頭のやり取りだけで浮上し、誰の担当とも決まらないまま消えていくという実態でした。soeasy buddy の「todo」は、その一件一件を話した数秒のうちに残し、終わったかどうかまでを、現場の手間を増やさずに見えるようにするものです。



Copyright © soeasy Co. Ltd.

開発の背景：歯科医院の「やること」は、なぜ記録に残らないのか

soeasy buddy の新機能「todo」は、歯科医院での訪問ヒアリングを起点に開発しました。2026年8月上旬、soeasyは複数の歯科医院を訪問し、日々の業務がどのように回っているかを伺いました。見えてきたのは、医院全体で共有されるタスク管理が「そもそも存在しない」という実態です。

やることは、診療の合間の「やっておこうね」というひと言で浮上します。器具の在庫、掲示物の差し替え、案内の仕方の見直し。どれも大切な気づきですが、誰の担当とも、いつまでとも決まりません。その瞬間に“いつか誰かがやること”になり、多くはそのまま消えていきます。

soeasy buddy を導入している医院でも、やることをアプリ上でやり取りしているケースはむしろ少数でした。soeasy buddyのタイムライン機能を活用して相談を行なっている医院は、進んでいるほうです。しかしその医院からも、次の声を伺いました。

> **院長**　「投稿して、コメントであれこれ出るけど、その後どうなったかわからない」

抜けているのは出口だけではありません。そもそも記録として生まれない「入口」と、生まれても追えなくなる「出口」の、両方が抜けていました。電子カルテや予約システムが扱うのは患者さまに紐づく情報で、医院を運営するための情報には、そもそも行き場がありませんでした。

「気が付いた人がやる」は、守るべき文化だった

担当が決まっていなくても、気づいた人が動く。この進め方は医院として健全な姿であり、soeasyが広げたい「おしえあい」の文化そのものでもあります。

ただ、気づける人はたいてい決まっています。同じ方が気づき、同じ方が手を動かし、そしてその実施は記録に残りません。負荷の偏りが、誰の目にも見えないまま続きます。見えない偏りを放置しないことは、医院にとって軽い話ではありません。

忙しさのなかで、「忘れる」は4回訪れる

診療の合間に交わされる会話は、数十秒で次の患者さまへと切り替わります。そのなかで“やること”は、次の4つのタイミングで抜け落ちていました。

> **1. 決めたとき**　「やっておこうね」と口頭で浮上し、誰の担当とも決まらないまま、そもそもtodoとして生まれません。

> **2. やるとき**　リマインドがないので、todoがあること自体を忘れます。気づいた人が気づいたときにやるしかありません。

Copyright © soeasy Co. Ltd.

3. やったあと　記録する場所がないので、やったことが残りません。翌週には「先週やったっけ？」になります。

4. 確かめるとき　院長には確認する手段がなく、聞くしかないので、確かめること自体を後回しにしてしまいます。

件数でいえば、1つ目で落ちるものが大半を占めます。しかし、どれかひとつが抜けただけで決めたことは最後まで届きません。逆に言えば、この4つさえ逃さなければ足ります。院長が求めていたのは「終わったかどうか」だけであり、必要なのは重厚な管理ではなく「軽い可視化」でした。

提供する機能の概要：soeasy buddy の「todo」でできること

soeasy buddy の新機能「todo」は、“管理する”のではなく“見えるようにする”ことに徹し、前述の4つの「忘れる」にそれぞれ答えを用意した機能です。アプリ版・ブラウザ版の両方でご利用いただけ、既存プランの標準機能として追加費用なくお使いいただけます。





1. 「決めたとき」── 話した数秒のうちに、todoになる

soeasy buddy の todo は、その場で直接つくれます。タイトルを入れるだけで1件が立ち、担当も期限も未定のままで構いません。さらに、朝礼やミーティングの録音から、AIがtodoの候補を拾い上げます。採用するかどうかは人が選びます。口頭で生まれて口頭で消えていた一件が、入力の手間なく残るようになります。タイムラインの投稿やコメントからも、ワンタップでtodoにできます。

2. 「やるとき」── 誰の担当でもないまま、動き出せる

soeasy buddy の todo は、繰り返しの設定に対応しています。「毎週月曜に滅菌」のように設定しておけば、todoが自動で立ち上がり、そのタイミングで通知が届きます。担当が決まっていないtodoは専用の場所にまとまり、手が空いた人が「やります」を押せば引き受けられます。上から割り当てるのではなく自分から手を挙げる形にしているのは、「気が付いた人がやる」という現場の文化をそのまま活かすためです。

Copyright © soeasy Co. Ltd.

3. 「やったあと」── チェック1回で、実施が残る

soeasy buddy の todo には、進捗率も、細かいステータスも、承認フローもありません。終わったらチェックする、それだけです。各todoには前回いつ・誰が実施したかが表示されるため、出勤するメンバーが日によって変わる歯科医院でも、「もう誰かがやったかもしれない」と迷う時間と、二度手間がなくなります。同じ方に実施が偏っていることも見えるようになります。

4. 「確かめるとき」── 終わっていないものだけが、残って届く

soeasy buddy の todo は、閲覧を限定せず、職場のみんなが見られる設計です。一覧には「終わっていないもの」が浮かび上がります。さらに、未完了のtodoだけをまとめた週次のダイジェストが医院に届きます。誰かが誰かに催促するのではなく、残っているものが全員に同時に見える。院長が避けたかった「催促する」というやり取りを、そもそも起こさずに済ませるための仕組みです。

5. そして、「やり方がわからない」で止まらない

soeasy buddy の todo からは、フォルダに保管された動画マニュアルへ直接移動できます。初めてその作業を担当する方も、todoの行から手順を確認して、そのまま実施できます。担当をあらかじめ決めなくてよいのは、やり方をいつでも取り出せるからです。動画マニュアルとタイムラインを同じアプリのなかに持つ soeasy buddy だからこそ、担当を固定しない設計が成り立ちます。

開発者より

株式会社soeasy　プロダクトオーナー　takumi

2026年8月ごろ、自分で歯科医院をいくつか訪問させていただきました。現場に行って気づいたのは、やることを置いておく場所がどこにもないことでした。紙も管理ツールも使っておらず、消耗品の在庫も、誰かが見て気づいたら補充する。すべてが個人の判断と記憶に頼っている状態でした。

もともとは、やるべきことを何らかの形で管理していて、それをしっかり管理できるものが欲しいという要望があると感じていました。ただ実際には、管理ではなく、その作業が終わったのかどうかこそが重要なのだと気づかされました。

一般的なタスク管理アプリやツールは、業務改善を目的としています。おしえあいの文化を醸成する soeasy buddy がやるべきか、正直判断に迷いました。それでも、やり取りは途中で途切れてしまっていました。誰かの記憶頼みではなく、仕組みでコミュニケーションをつなげていく。そう考えたときに、soeasy buddy だからこそやるべきだと感じ、つくることを決めました。

Copyright © soeasy Co. Ltd.

とにかく追求したのは、覚えなくていい、仕組みに任せて見えるようにすることです。そして社名のとおり、soeasy＝超かんたんに使える、現場の手間を増やさない設計にもこだわりました。この「todo」を通して、現場の業務を含むコミュニケーションがより円滑になり、さらにおしえあいの文化が醸成されるように、今後も開発と改善を続けていきます。

サービス概要

サービス名	soeasy buddy（ソーイージー バディ）
新機能名	todo
提供形態	既存プランの標準機能として提供（追加費用なし）
対応環境	アプリ版（iOS／Android）、ブラウザ版
サービスサイト	https://www.soeasy.co.jp/service-soeasy-buddy

よくあるご質問

Q. soeasy buddy の「todo」はどのプランで使えますか。

A. 既存プランの標準機能として提供しています。追加費用はかかりません。

Q. アプリとブラウザのどちらで使えますか。

A. アプリ版・ブラウザ版の両方でご利用いただけます。

Q. 誰が使えますか。

A. soeasy buddyのアカウントをお持ちであればどなたでもご利用いただけます。担当も期限も未定のままでtodoの登録もできます。担当が決まっていないtodoは専用の場所にまとまり、手が空いた方が「やります」を押して引き受けられます。

Q. 誰が実施したかは記録に残りますか。

A. 残ります。各todoには、前回いつ・誰が実施したかが表示されます。出勤するメンバーが日によって変わる職場でも、二度手間を防げます。

Q. 歯科医院以外でも使えますか。

A. 使えます。soeasy buddy をご利用のすべての業種でお使いいただけます。本機能は歯科医院での訪問ヒアリングを起点に開発しましたが、「決めたことがやりきられたかわからない」という課題は業種を問わず起こります。

Q. 一般的なタスク管理ツールとの違いは何ですか。

A. 管理すること自体を目的にしていない点です。進捗率やステータス、承認フローを持たず、「終わったかどうか」を見えるようにしています。また、動画マニュアルやタイムラインと同じアプリのなかにあるため、todoから手順の動画へ直接移動できます。

Copyright © soeasy Co. Ltd.

soeasy の想い

わたしたちは、気づいた人が動けるという現場の良さを残したまま、その気づきが最後まで届く状態を、誰の負担も増やさずにつくりたいと考えています。この課題は歯科医院に限りません。現場の「おしえあい」が、伝えるだけで終わらず、実行され、記録され、次のおしえあいにつながっていく。その循環を、それぞれの業界でつくってまいります。

会社概要

株式会社soeasy

所在地	〒101-0041　東京都千代田区神田須田町2-3-12　12KANDA 506
設立	2016年12月
資本金	6,595万8,900円
コーポレートサイト	https://www.soeasy.co.jp/

本件の問い合わせ先

株式会社soeasy　広報　mail：pr@soeasy.tokyo

Copyright © soeasy Co. Ltd.